

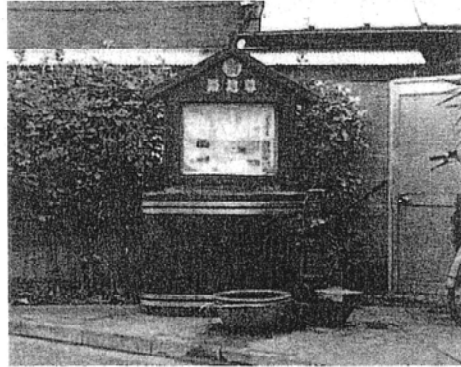
### どんな防災まちづくりを進めるか

いくつかの特別区では、大地震が起きても逃げないで地域を守れるまちを目標に、「防災生活圈促進事業」という事業を始めています。幹線道路などに囲まれた地区を単位に、防災組織などまちの防災力を高めながら、道路、公園広場や緑、街並みなど安全で住みよい環境づくりを進める事業です。

すでにいくつか実施されている他の区の事例をご紹介します。これらでは、区と住民とが「まちづくりの会」をつかって、計画づくりや催しなどいろいろなまちづくり活動をしています。

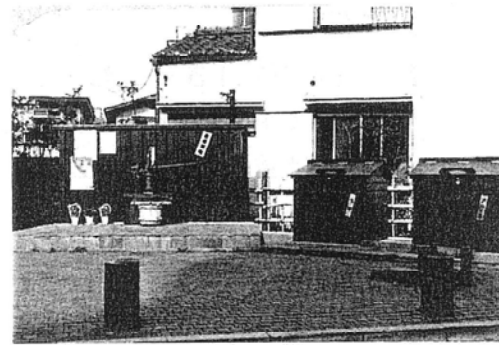
### 墨田区一寺言問地区

隅田川沿い、路地や長屋もあり、下町風情が残る密集地です。(約68ha、人口およそ11,000人、昭和60年から)



#### ◆路地尊(ろじそん)

隣家の屋根からの雨水を貯めます。ふだんはやり水に、災害時は消火用水となります。



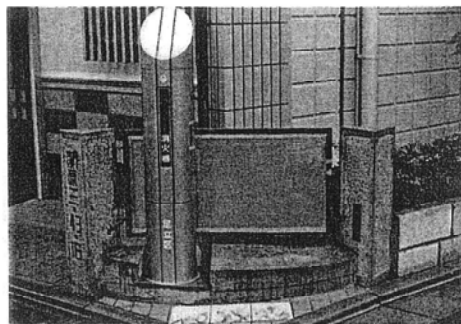
#### ◆会古路地(えころじ)

リサイクルをテーマにした防災広場です。

その他、桜を植えた「旧墨堤の道」や四季を感じる「寺島の道・百花園通り」などアイデアいっぱいの整備をしています。「まちづくり瓦版」で全戸に伝えています。

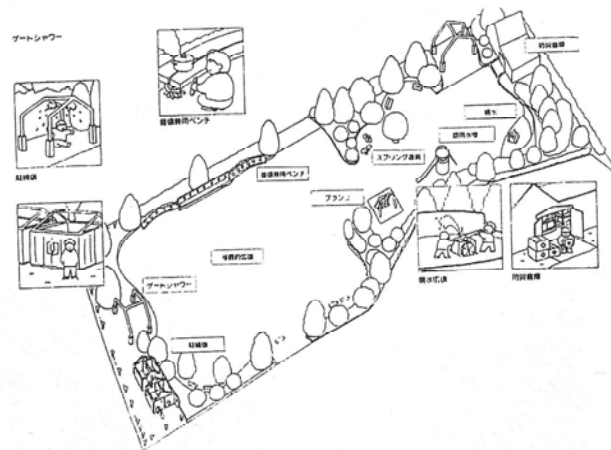
### 足立区関原地区

荒川に近い、狭い道路が多い住工混在のまちです。(約69ha、人口およそ15,000人、昭和60年から)



#### ◆角切り

交差点を角切りして、街頭消火器、情報板をデザインしました。避難方向を示す絵タイルもあります。



#### ◆防災広場

防災訓練用の放水まともやかまどになるベンチなどが備えてあります。

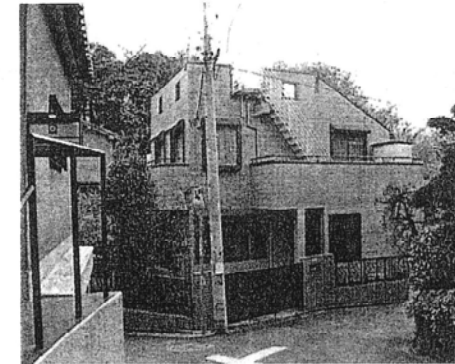
その他、「防災学校」「まちづくり事務所」、「防災路地緑化」「防災果樹園」などユニークな整備が進んでいます。

### 何故、池袋本町で防災まちづくりを始めるのか

豊島区でも防災生活圈促進事業にもとづく防災まちづくりを進めることが必要と考え、平成6年度に全区を対象とする地区選定調査を行いました。ある程度災害危険が高いこと、地域の方のまちづくりへの意欲が高いことなどを基準にして選定作業を進めました。その結果、アンケートなどをもとに、みなさんのお住まいの池袋本町が防災まちづくりを進める地区として選定されました。このことから、今回、まちづくりアンケートなどを行いながら防災まちづくりのとりくみを開始することになりました。

### 品川区・目黒区林試の森公園周辺地区

避難地を兼ねた都立公園周辺の住宅地です。(約138ha、人口およそ30,000人、昭和61年から)



#### ◆周辺の不燃化

火災から避難地を守るため、同時施行で都市防災不燃化事業を行っています。



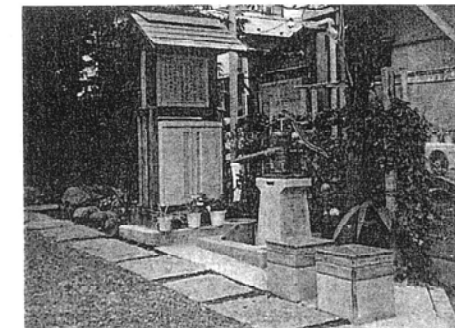
#### ◆地区防災道路

災害時には避難路になる新しい道路です。道ばたにせせらぎや水車小屋をつくりました。

その他、「防災オアシス」整備、プロムナードづくり、まちづくり集会施設などひろばや道路の整備が進んでいます。

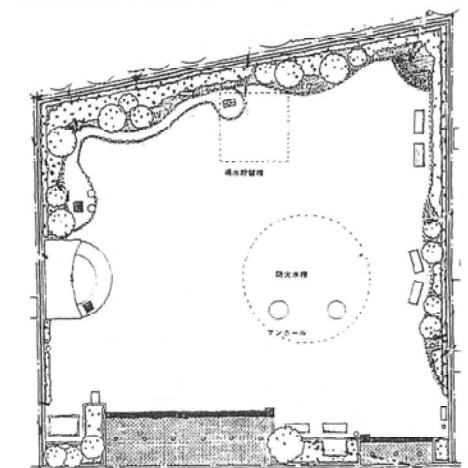
### 板橋区仲町・弥生町・南常盤台一丁目地区

池袋から東武東上線で4つ目の中板橋南側の密集地です。(約60ha、人口およそ12,000人、平成5年から)



#### ◆防災井戸

井戸は、災害時には強い味方になります。



#### ◆防災ひろば

訓練用放水まともや防災水槽がある「防災ひろば」。震災時の防災組織の拠点になります。

計画は、町会役員を中心に防災ウォッチングや、まちづくり見学会など活動してまとめられました。